



コーポレートレポート CSR 2014

make you smile with みらいIT

株式会社ミライト・ホールディングス
CSR 推進室

〒135-8111
東京都江東区豊洲 5-6-36
TEL : 03-6807-3120
FAX : 03-5546-2967

<http://www.mirait.co.jp/>



印刷用紙は、適切に管理された森林で生産されたことを示す FSC® 森林認証紙を使用しています。



印刷インキは、植物油インキを使用しています。



この報告書は、みんなの文字を使用しています。みんなの文字は、一般社団法人 UCDA が「読みやすさ」を認証した書体です。



CONTENTS

- 1 目次・編集方針
- 3 トップメッセージ
- 5 特集 ミライトグループの事業と社会的責任
- 13 ミライトグループのCSR
- 15 社会とのコミュニケーション
- 17 お客さまサービスの向上
- 19 元気な職場づくり
- 21 環境への取り組み
- 23 財務データ
- 25 グループ概要

ミライトグループの 総合エンジニアリング&サービス

- 環境・社会イノベーション事業
電気・空調設備、環境・新エネルギー関連設備、
社会インフラ設備の設計、構築、保守、運用
- ICTソリューション事業
データ系設備、音声系設備の設計、構築、保守、運用
システム・ソフトウェア開発
- 通信インフラ事業
固定系通信設備の設計・構築・保守・運用
- モバイルネットワーク事業
無線系通信設備の設計・構築・保守
- グローバル事業
アジアを中心としたあらゆる地域における情報通信に
関連する調査・企画・設計・構築・保守

人と社会と環境にやさしい街を

つくる。
まもる。

編集方針

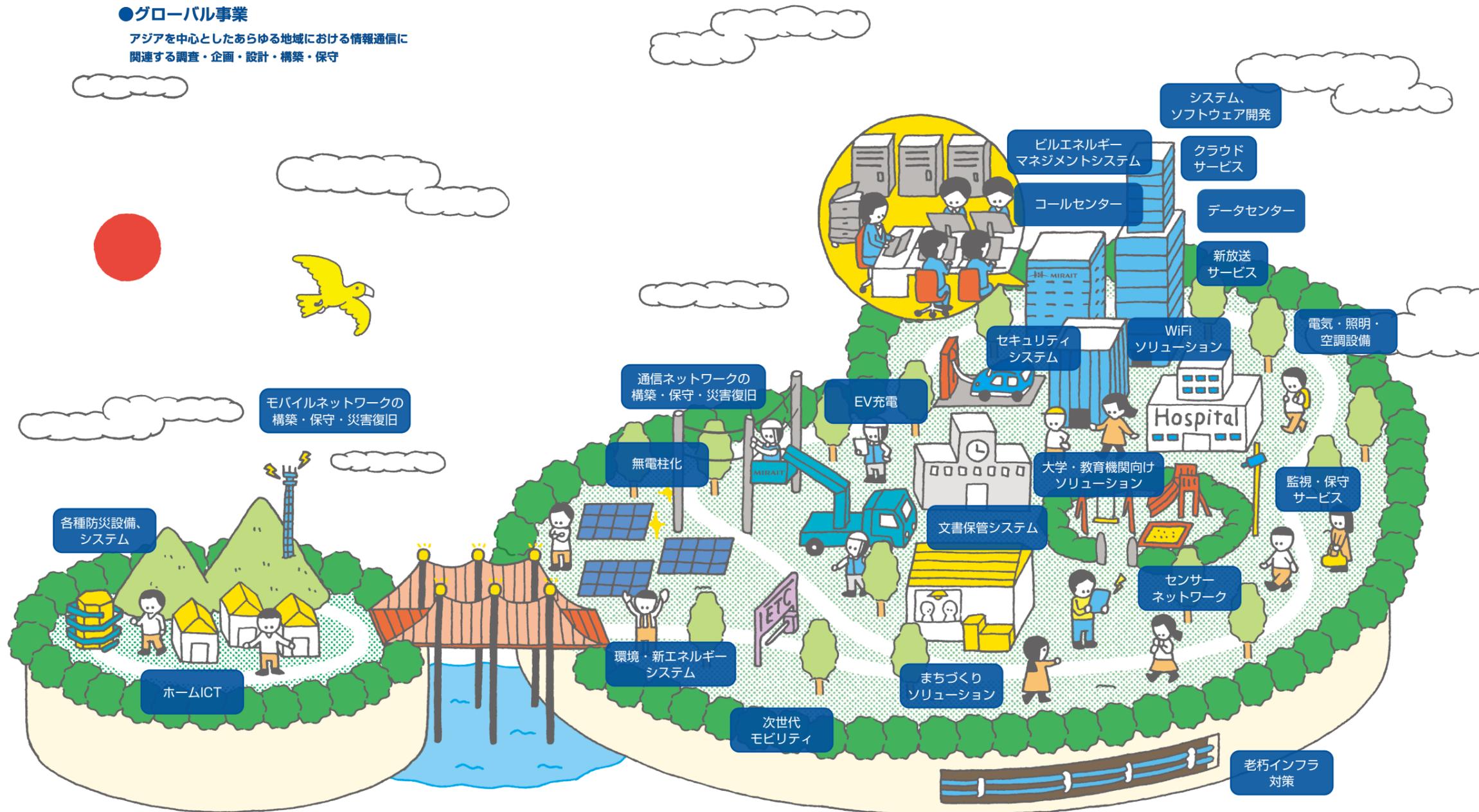
本報告書では、持続可能な社会の実現に向けたミライトグループの方針・活動をご報告しています。
当社では、さまざまな社会課題に積極的に取り組むために重点テーマを選定しました。それをもとに、事業活動を通じた持続可能な社会の実現に貢献する活動や、事業活動以外の分野でステークホルダーの皆さまと関わる多様な活動を行っています。
本報告書では、それらの活動を「つくる・まもる」をテーマに特集記事としてまとめ、詳細な方針や活動はカテゴリごとに分類した報告パートに掲載しました。

対象期間

2013年4月1日～2014年3月31日
(報告の一部に、2014年4月以降の活動と取り組み内容も含まれます)

発行日

2014年9月



社会イノベーションに 貢献する企業グループとして 持続的に発展していく

株式会社ミライト・ホールディングス 代表取締役社長
鈴木 正俊



企業基盤を整え、より機能的な 組織となるためのスタートラインに立つ

2020年をひとつの節目として、社会全体の風向きがよくなり、人々の反応がポジティブになってきていると感じています。東京オリンピックもその流れのひとつですが、社会や企業が前へ向かって大きく動き始めているのは確かだといえるでしょう。情報通信業界においても、この流れは非常に盛んです。通信の高速化や情報のリッチ化が進み、今後さらに激しい変化を迎えることが予測される中で、各方面で積極的に設備投資が行われています。

2013年度は、ミライトグループを再編して最初の中期経営計画が終了した年でした。売上高 2,800 億円、営業利益 120 億円という目標は、立てた当初は挑戦的な数値だとも思いましたが、結果として 2013 年度の売上高は 2,777 億 2 千万円、営業利益 114 億 5 千 4 百万円と、達成に近い数値をあげることができました。この中期経営計画は、再編したグループの人的基盤、社内システムなどを整えるとともに、総合エンジニアリングを提供する企業グループとしての大きな事業基盤をつくるものでした。このグループの基盤づくりという目標についても、数値目標と同様に概ね目標を達成することができたと考えています。

2014 年度から開始する新しい中期経営計画では、できあがったグループの基盤の上に、総合エンジニアリング & サービス会社としての事業を充実させていくこと、さらに新しい事業分野を確立していくことを目指しています。

企業が 3 年先、5 年先、10 年先の発展を見据えた時、それぞれに必要な方策は異なります。3 年先なら今ある事業を膨らませていくことで達成できますが、5 年先では新し

い事業拡大の形をつくる必要があります。そして 10 年先では特に当社のような人材と技術に支えられた企業の場合、新しいものに適応できる人材力を養っていくことが不可欠です。そういった視点のもと、新しい中期経営計画はマイルストーンとして 3 年後を目標としつつも、5 年後に向けて新しい事業の種をまくこと、10 年後に備えて人材基盤をつくっていくことを重視しています。

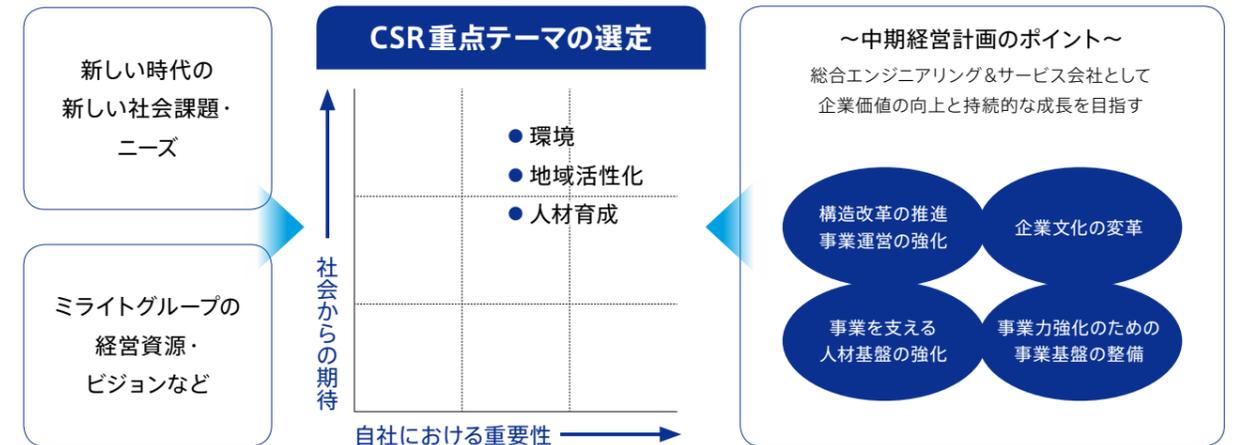
事業とCSRを 一体のものとして進めていく

ミライトグループは、2020 年までに環境・社会・ICT 分野を主要事業として拡大していきます。その根幹にあるのは、総合エンジニアリングとサービスを提供することで、社会イノベーションに貢献したいという想いです。ICT は組織や人の接点となるものであり、私たちの事業の現場もまた社会の接点ということになります。だからこそ、ICT を事業の核とする私たちは、社会をよく見て理解し、自分たちの事業の社会的価値をきちんと理解していかなければなりません。

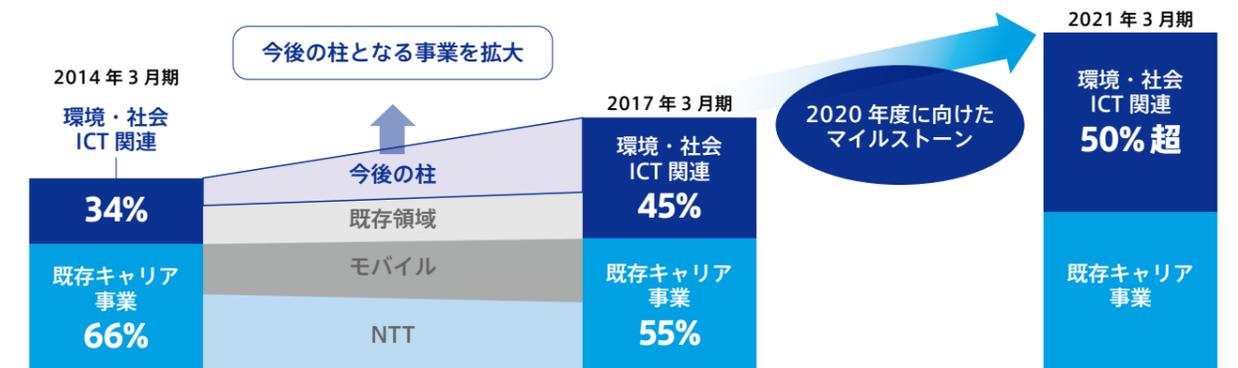
近年、特に自治体や大学の工事における入札の際、環境保護や周辺住民への配慮ができるか否かを事業者選別の決め手とされる事例が増えています。求められているのは、工事に使用する自動車の冷房をこまめに切るとか、工事が終わった後について現場周辺のゴミを拾うとか、そういった通常業務の延長線のできる些細なことですが、そこには社会活動と通常業務を同時に行わないと事業が成り立たなくなっているという、社会の変化があらわれています。つまり、社会イノベーションを実現するような事業を展開していくためには、社会に対して企業としての責任を果たす活動、CSR が不可欠だということです。

中期経営計画におけるCSRの展開

社会からの当社への期待と 2014 年度からスタートした新たな中期経営計画など 自社における重要性の観点から CSR の重点テーマを決めて取り組んでいます。



中期経営計画における事業構造変革イメージ



ICTを活かして社会課題を 積極的に解決していく

私たちの事業に大きく関わる社会課題に、少子高齢化や地方の過疎化、そしてそれらを受けて起こる都市機能の不足があげられます。

少子高齢化が進んだ現在、若年層にかかる経済的・時間的な負担への対処が急務となっています。また、同時に進行している地方の過疎化は少子高齢化でさらに進み、便利な都市部に人口が集中しています。若年層の生産能力を上げ、高齢者が自分たちの力で生活していける仕組みをつくるためには、都市を重点的に効率化することが必要です。ミライトグループが持つ ICT の技術や長年培ってきた経験は、都市の効率化に大きな力を発揮します。ミライトグループは、さまざまな側面から社会課題を解決できるグループとなることを目指していきます。

社会課題を解決するイノベーションにつながる仕事をするために最も重要なのは、ミライトグループとしての「いい仕事」をすることです。そのためには、「いい仕事」とは何かを自分たち自身の「ものさし」で測れることが前提となります。この「ものさし」は、ひとりよがりなものではなく、特に持続的な発展をしていくためには、「ものさし」を社会とあわせるということがより重要になります。だからといって「ものさし」を変化にあわせて変え続けては機能を果たせません。「いい仕事」という基準を、企業としても従業員一人ひとりの中にも確固たるものとして創り上げ、根本的な価値観は維持したまま、社会の動きや世の中のニーズを敏感に捉えていかなければならないのです。

最も大事なのは、社会の要求にあわせた形で社会イノベーションに貢献していくことです。そこに向かって持続的に発展していくことが、ミライトグループの目指すべき方向だと思っています。

つくる



暮らしや仕事を便利で豊かにする社会インフラ、 さまざまなシステムをつくる

さまざまな情報通信システムで知識や情報を共有したり、円滑なコミュニケーションができるようになると、
社会生活やビジネスはより豊かなものになります。

ミライトグループは、通信ネットワークなどの社会インフラのほか、
太陽光発電やEV充電といった地球環境にやさしい設備などを構築するとともに、
人と人のつながりに新しい価値を生み出す各種システムを提供しています。

これからの社会インフラをつくる

社会のニーズ

手軽で快適に
インターネットにつなげたい

ネットユーザの増加やトラフィックの増大により、通信ネットワークの増強が求められています。これらに対応するため、高速で安定的な通信を可能とする光ネットワークを全国および海外で構築しています。

ミライトグループにできること

光ネットワークの構築



光ファイバケーブルの接続作業

社会のニーズ

地下鉄や山間部などでも
快適に携帯電話を使いたい

建物内・地下鉄構内・駅間（トンネル内）等、電波の受信が困難な場所へのスマートフォンの普及に伴う通信量の急増に対応する設備の増設など、快適なモバイル環境を支えています。

ミライトグループにできること

モバイルネットワークの構築

山間部で携帯電話基地局の試験を行っていた時に、サービス開始を心待ちにしている住民の方に声をかけられたことがあります。自分の仕事が社会の役に立っていると実感した瞬間でした。現在は工事の進捗管理などを通してお客さまの要望にいち早く応えることに、やりがいを感じています。



(株)ミライト ドコモ事業本部
田中 昌美

社会のニーズ

人と環境にやさしい街にしたい

地球温暖化やエネルギー資源問題などに対応するため、「太陽光発電」「燃料電池」「EV充電」「空調衛生設備」など環境や省エネに関するさまざまなソリューションを提供しています。さらに、高速道路や地下鉄に関連する設備工事のほか、電線類の地中化などで人と環境にやさしい街づくりに貢献しています。

ミライトグループにできること

街づくりソリューション



太陽光発電設備

EV充電設備

コミュニティを便利に豊かにする

社会のニーズ

ホテルやイベント会場などで
関連する情報をもっと知らせたい

人が多く集まるスタジアムなどのイベント会場やコンビニやホテルなどに WiFi 環境を構築しその場所で必要な情報を提供できるようにしています。「ee-TaB* (イータブ・プラス)」は、タブレット端末に館内のお知らせなどを配信するホテル宿泊者向けのサービスです。

ミライトグループにできること

WiFi ソリューション



ee-TaB*

社会のニーズ

限定した地域の詳しい情報を
各種メディアを使って知らせたい

各種ネットワークを活用しエリアを限定して情報を送るためのシステムを提供しています。自主放送によるテレビ向け地デジ情報配信システム (RF サイネージ) は、ビル

ミライトグループにできること

放送、サイネージソリューション

マンション・集合住宅で既存のテレビ共聴配線を利用して入居者のテレビに独自に作成したコンテンツを配信することができます。

社会のニーズ

大学の授業を自宅などでも
受けられるようにしたい

日本で初めてとなる情報メディア利用による通信制大学院の履修システム「遠隔教育システム (サイバークャンパスシステム)」を構築しました。「サイバーゼミ」と

ミライトグループにできること

大学・教育機関向けソリューション

称するゼミでは、学生の自宅と大学院とをインターネットで結びます。さらに教育機関における校務を効率化する各種システムなども提供しています。

社会のニーズ

図書館など地域住民サービスの
充実を図りたい

地域住民向けの図書館や駐車場などのサービスを高度化するための各種システムを提供しています。グループ会社である (株) リブネットの「TOPNET」や (株) ミライト情報システムの「Next-L Enju」は、運営・管理ノウハウや、図書館のニーズに合わせたデータ管理システムなど、魅力的な図書館づくりのためのサービスを提供しています。

ミライトグループにできること

図書館ソリューション



ビジネスを円滑にする仕組みをつくる

社会のニーズ

システム導入で業務の効率を上げたい

公共システム・企業基幹システムから、日々の業務管理やコンテンツ発信まで、業種業態によって求められるソフトウェアはさまざまです。ミライトグループでは、

ミライトグループにできること

システム・ソフトウェア開発

OSS (オープンソース・ソフトウェア) を用いた基幹システムやアプリを開発・提供。お客さまの課題を解決するシステムを数多く提供しています。

社会のニーズ

サービス品質を向上させたい

企業のサービス品質や業績の向上に効果のあるさまざまな情報通信システムなどのソリューションを提供しています。2014年3月に販売開始した人流計測センサ「みるカウント®」は、プロセッサを搭載したカメラの画像認識により通行人を自動計測するもので、マーケティングや安全管理などに利用できます。

ミライトグループにできること

マーケティングソリューション



「みるカウント®」の画面とカメラ

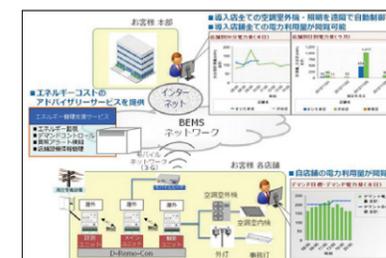
社会のニーズ

地球温暖化やエネルギー資源問題に
真剣に対応したい

地球温暖化やエネルギー資源問題などに対応して、さまざまなソリューションを提供しています。「ビルエネルギー管理システム (BEMS)」は、電力使用量の効率化による省エネソリューションの設計・構築・保守や空調設備の自動運転管理によって、省エネと最適な居住環境の維持を図るシステムです。

ミライトグループにできること

省エネ・環境ソリューション



社会のニーズ

お客さまからのさまざまな声を
サービスの改善につなげたい

消費者と企業をつなぐコンタクトセンターの構築に関する多くの実績を持っており、通話録音システムや発着信履歴管理システムなども提供しています。「ワーク

ミライトグループにできること

コンタクトセンターソリューション

フォース・マネジメント」の手法を使ったシステムにより、コンタクトセンターの呼量を高い精度で予測し適切な人員配置をすることができます。

まもる



写真：「親子をつなぐ子ども仕事体験」イベント（市川研修センターにて）

人と人、人と地域、人と企業をつなぐさまざまなネットワークや社会インフラをまもる

さまざまなネットワークを遮断する自然災害や大事故は、突然襲ってきます。ミライトグループは、通信ネットワークや道路・上下水道などの社会インフラの保守や管理を行っており、さらに被害を未然に防ぐための緊急地震速報やビル被災度診断などのほか、各種情報通信システムをまもるセキュリティも提供しています。

ネットワークなどの社会インフラをまもる

社会のニーズ

災害時でも電話を早く使えるようにしてほしい

台風や地震など重大な災害や事故が起こった時に、社会インフラとしての通信ネットワークを一刻も早く復旧させることは極めて重要です。ミライトグループは、ネットワーク設備が被災した場合、一丸となって復旧活動に取り組んでいます。

ミライトグループにできること

通信ネットワークの災害復旧



社会のニーズ

いつでも安心して使えて信頼できる通信ネットワークであってほしい

電話などの通信ネットワークは、「つながるのが当たり前」と誰もが思っています。いつでも安心して使える信頼性の高いネットワークを維持するため、培ってきた技術力やノウハウをもとに保守や管理などの業務を日々行っています。

ミライトグループにできること

通信ネットワークの保守メンテナンス

2014年2月中旬、群馬県では雪害による故障が多数発生しました。応急復旧の支援に出勤したところ、お客さまから「今回のように雪で使えなくなると、電話のありがたみを強く感じる」との言葉をいただきました。私が従事している通信インフラの構築・保守業務が企業・個人すべてのお客さまの生活に大きな影響を持っていることを改めて認識するとともに、お客さまの困難を解消できることに誇りを感じました。

(株)ミライト・テクノロジーズ NTT 事業本部 渡邊 真也



社会のニーズ

長期間使用している道路などを安全に維持管理したい

道路や橋梁、トンネルなどの社会インフラも長い年月が経過すると老朽化するため、安全を維持するためには計画的な維持管理が必要です。ミライトグループは老朽化したさまざまな社会インフラの復旧工事を実施しており、下水道管の工事については、道路を掘り起こすことなく通水しながら工事ができる工法を採用しています。

ミライトグループにできること

老朽インフラの更生



老朽下水管の更生（SPR工法）

ビジネスや暮らしをまもる

社会のニーズ

安心して暮らせる街にしてほしい

IP ネットワークを利用した遠隔による監視システムは、公園や繁華街などあらゆるシーンで必要とされています。

ミライトグループでは、世界各国で導入実績のあるサーベオン社製品による監視カメラソリューションや、セキュリティ監視だけでなく多彩な映像配信に対応できるG-Matrix など、地域の安全をまもるソリューションを提供しています。

ミライトグループにできること

監視、保守に関するソリューション



社会のニーズ

ネットワークの故障や不具合に早急に対応してほしい

ミライトグループには、ネットワーク機器の故障などで困った方を技術サポートする、24 時間 365 日電話で受け付けるコンタクトセンター「カスタマー・システム・サポート・センター (CSSC)」があります。ここでは、全国 120 拠点から 2 時間以内で故障の現場へ駆け付けられることのできる体制を構築しています。

ミライトグループにできること

技術サポートサービス



社会のニーズ

サイバー攻撃などからシステムをまもりたい

サイバー攻撃などからコンピュータシステムをまもるさまざまなセキュリティシステムを提供し、お客さまの事業継続を支援しています。DoS 攻撃に対抗する切り札として Corero 社の製品・ソリューションを提供して

ミライトグループにできること

セキュリティシステム

おり、さらに 2014 年 3 月からはスウェーデン・クラビスター社製品も提供するなどトータルなネットワークセキュリティに関するソリューション事業の強化を図っています。

社会のニーズ

企業にとって重要な文書等を安全に管理したい

事業継続に有効となる、重要な文書などを管理するシステムを提供しています。クラウド環境にて提供する高性能なデジタルアーカイブシステム「i2D」は、大量

ミライトグループにできること

文書保管システム

のスキャンイメージを高速で処理し、電子情報や紙情報資産を一元的に管理します。

災害などからコミュニティをまもる

社会のニーズ

自然災害による被害から生命をまもってほしい

事業活動や地域コミュニティなどをまもるため、災害による被害を未然に防ぐさまざまな設備やシステムの提

ミライトグループにできること

各種防災設備・システム

案から施工、メンテナンスまでを一貫して行っています。

落石監視センサーシステム

センサーにより落石を検知し、ネットワークを使って監視センタにアラート信号を発信することにより、監視カメラで現場の映像を目視確認することが可能です。また、携帯電話でもアラート信号をメールで受信したり、監視カメラの映像確認や操作をすることが可能です。

雷針とは異なり、鉄塔や電柱などの重要施設への落雷を回避するために、落雷地点を別の場所に誘導することができます。

緊急地震速報システム

気象庁が配信する緊急地震速報を受信し、おおよその地震到達時刻や震度を、音声や専用表示器、サイネージやパソコン画面等で案内するシステムです。地震観測で培ったノウハウを活かして安定稼働を実現した製品で、IP ネットワークを利用して最大 256 地点への再配信や、集中管理拠点における各地の状況の一括把握も可能です。

ビル被災度診断システム

地震による被災時に、ビル等建物の安全性を加速度センサーで収集した情報をもとに瞬時に診断、把握します。建物に残るべきか、避難すべきかを施設管理者や居住者に的確に情報提供でき、さらにネットワーク化することで全国の管理対象ビルの被災状況などを集中管理することもできます。

地域 WiMAX によるまちづくり

ミライトグループでは、通信事業者に依存しない、地域独自の無線通信網を構築しています。住民への情報伝達や気象センサを組み合わせた災害時の情報収集など、災害時の活用だけでなく、平常時の一般情報の提供や高齢者の見守り、防犯監視等への活用により、「安心・安全・快適」な街づくりをしています。

各種情報通信設備の耐震・免震工事

企業が取り組む地震対策は、従業員の生命の安全を図ることはもちろん、企業の生命線ともいえる情報システムの保全も重要なテーマです。コンピュータや通信機器などの破損は、大きなダメージとなります。ミライトグループでは、各種情報通信設備などの設置状況にあわせた最適な耐震、免震対策を提供しています。

落雷抑制システム

落雷抑制システムは、従来のような落雷を誘引する避



地域 WiMAX

より豊かで快適な社会の実現に向けて

2010年10月に大明(株)、(株) コミュニチュア、(株) 東電通を経営統合するにあたり、グループの経営の基本理念を「企業の社会的責任を果たし、常に人間性を尊重する企業として、人や社会と共存共栄する企業であり続ける」とし、一体となってCSRに取り組むことを表明しました。

CSR 推進体制

CSR の基本的な考え方

- 1 社会の要請や期待に応じて事業を継続させることで、ステークホルダーから長期的な信頼が得られるようにする。
- 2 本業に社会や環境などの諸課題への対応を組み込むことで、変化へ対応できる企業にする。
- 3 企業として持続可能な社会づくりに貢献することで、存在することを期待されるような「ブランド」にする。

持株会社社長を委員長とする「CSR 委員会」を設置するとともに、事業会社各社のCSR 担当者による「CSR 連絡会」と持株会社の「CSR 推進室」を中心にグループ全体でCSR を推進する体制を構築しています。

CSR 推進体制図



ミライト WAY

ミライト WAY



ミライトグループの「経営の基本理念」「行動指針」「企業倫理憲章」を「ミライト WAY」として体系化しました。

行動指針

- 1 >> 「期待を超える」サービスを常に提供します!
- 2 >> 「安心と信頼」を現場力でさらに高めます!
- 3 >> 一歩前へ! 「知恵と勇気」をかたちにします!
- 4 >> 「誠実と公正」を仕事の基本とします!
- 5 >> 豊かな未来を「強いチーム力」でつくります!

企業倫理憲章

「ミライトグループ企業倫理憲章」

- 1 >> 「法令等遵守」に関する基本姿勢
- 2 >> 「お客さま」に対する基本姿勢
- 3 >> 「株主・債権者」に対する基本姿勢
- 4 >> 「取引先等」に対する基本姿勢
- 5 >> 「従事者・職場」に関する基本姿勢
- 6 >> 「社会・環境」に対する基本姿勢
- 7 >> 「個人情報・顧客情報及び知的財産の保護」に関する基本姿勢

CSR に関する主な取り組み

ISO26000 中核主題	主なテーマ	2013 年度実績	2014 年度の取り組み
組織統治	◆ グループの重点課題への対応	・社会への影響と自社における重要性などの観点から重点対応テーマ選定	・重点テーマごとの取り組み施策の具体化
人権	◆ ダイバーシティの推進	・多様な人材の採用と職域拡大に向けた取り組み	・多様な人材の採用と職域の拡大 ・人権教育の拡充
労働慣行	◆ 次世代人材の育成	・グループ共通の新しい評価制度の導入 ・ワークライフバランスの推進	・グループ一体となった人材育成 ・子育て支援制度、介護休暇制度等の活用促進
環境	◆ 地球環境負荷の低減 ◆ 環境事業の推進	・データセンターの移転や基幹サーバの更新等による省エネ化の推進 ・太陽光発電による売電事業の開始 ・BEMS ビジネスの推進	・環境関連ビジネスのさらなる拡大 ・各事業所における省エネルギー化 ・廃棄物の削減、リサイクル率の向上
公正な事業慣行	◆ リスクマネジメント・コンプライアンスの徹底 ◆ 情報セキュリティの強化	・研修などによる啓発と定着の推進 ・重点リスク項目を設定し PDCA で推進 ・BCP (事業継続計画) の具体化	・研修などによる啓発と推進を継続 ・BCP についてさらなる高度化
消費者課題	◆ サービス品質の向上	・業務、サービス品質の改善に関するモニタリングの実施	・ミライトオリティの確立 ・海外事業所における品質管理体制の構築
コミュニティ参画及びコミュニティの発展	◆ 地域に密着した事業活動の推進 ◆ 社会イノベーション事業の推進	・他社とも連携した社会貢献活動 ・各事業所における地域行事への参加	・街づくり、社会イノベーション関連事業の拡大 ・グループとしての地域貢献施策の展開

コーポレートガバナンス

当社は、お客さまや社会からの信頼に応え、ミライトグループ各社が持続的に健全に発展していくため、最適なコーポレートガバナンスを構築するための各種のマネジメント体制を強化し続けています。詳細は、当社ホームページのIR 情報（コーポレートガバナンス）をご参照ください。

内部統制システム

当社は、グループ各社の業務の適正さを確保する体制として「内部統制システムの基本方針」を取締役会で決議して取り組んでいます。また、ミライトグループ「マネジメントルール」により、グループ運営の具体的な運用方法を定め、持株会社との「協議事項」と持株会社への「報告事項」等を明確にするなど、内部統制システムを確立し、適切な運営をしています。

内部監査

当社は、業務監査室を中心に、統一的な監査や内部監査の取り組み状況の確認などを行うことで、グループ全体の内部統制の整備・運用状況を検証するとともに、業務改善の推進を進めています。

コンプライアンス

ミライトグループは、コンプライアンスの徹底を図るため、「コンプライアンス規定」を2011年3月に策定しました。社長を委員長とする「コンプライアンス委員会」で個別課題について審議するとともに、推進活動の進捗状況を管理しています。また、「コンプライアンスマニュアル」をグループ内に配布し、企業倫理の浸透・徹底を図っています。

リスクマネジメント

「リスク管理規定」で、株式会社としてのリスク管理の基本事項を定め、さまざまなリスクに対して的確な管理を行うとともに、社長を委員長とする「リスク管理委員会」で個別課題の審議などを行っています。

情報セキュリティについては、情報セキュリティ・マネジメントシステム ISMS (ISO/IEC27001) を各社が認証取得しています。事業活動に用いるお客さま情報および社内情報の重要性を認識しセキュリティリスクに適切な対応を講じて情報資産を保護します。

※コーポレートガバナンスの詳細は当社ホームページおよび東京証券取引所のホームページで公表されている当社の「コーポレートガバナンス報告書」をご参照ください。

豊かな未来を社会とともに築く

人や社会と共存共栄する企業であり続けるため、企業としての社会的責任を果たし、常に人間性を尊重し、豊かで快適な社会の実現に寄与していきたいと考えています。

社会貢献活動



江東区コミュニティサイクルの自転車ステーション



社会貢献型自動販売機



駅伝に参加した従業員

人や環境にやさしい乗り物を支援

エリア内に自転車ステーションを設置することで、どこでも自由に自転車を借りたり返したりできる新しいタイプの自転車レンタルサービスを、通勤や観光に利用する人が増えています。このサービスには、交通渋滞の緩和や温室効果ガスの排出量削減といった効果があり、パリやロンドン、ニューヨークなど世界の主要都市で普及が進んでいます。東京都も、2020年開催のオリンピックに向けて、都内における実施エリア拡大を目指しています。

ミライトグループは、2010年からサービスを開始した江東区コミュニティサイクルへ、3月から自転車の車体に広告を掲出するなどの支援をしています。

台風30号で被害を受けたフィリピンを支援

11月初旬に発生した台風30号(国際名: Haiyan)は、観測史上例のない猛烈な勢いでフィリピンを襲い、通過ルートとなったレイテ島を中心に甚大な被害を残しました。(株)ミライト・テクノロジーズは食糧品や衛生用品などの支援物資を被災地へ送りました。現地に拠点を置く企業として、引き続きフィリピンの復旧・復興に貢献していきます。

社会貢献型の自動販売機を増設

自動販売機でドリンク類を買うと、毎回1～3円が自動的に「緑の募金」に寄付される社会貢献型自動販売機を、2012年から導入しています。10月には(株)ミライトの東北支店と郡山センタにも設置するなど、設置台数を拡大しています。全国で累計37台を設置し、これまでに寄付した金額は140万円を超えています。

「NIPPON IT チャリティ駅伝2013」に参加

うつ病やひきこもりになっている方々の就労支援などを目的とした「NIPPON IT チャリティ駅伝」の第4回が、11月17日に東京都立潮風公園などで行われました。ミライトグループから33名6チームが参加し、選抜チームが総合5位(全663チーム中)となりました。

地域とのコミュニケーション活動

人命救助などで表彰状・感謝状

日本トヨコム(株)の社員が勤務中に路上で車両が燃えているのを発見し、消火活動を行ったことに対して、深川警察署から感謝状を贈られました。また、東電通テクノス(株)の社員は神奈川県茅ヶ崎市でウィンドサーフィンをしている最中に溺れている人を発見し、救命活動を実施。迅速な救命処置等を行ったことに対して、茅ヶ崎消防署より表彰状を贈られました。

目黒川クリーンアップ大作戦に参加

「目黒川を豊かな生活環境にする会」が主催する「目黒川クリーンアップ大作戦」に、ミライトグループの社員が参加しています。2013年は12月6日に開催され、目黒川沿いの道路や緑地で清掃活動を行いました。

東日本大震災ボランティア活動

宮城電業協会が主催する「東日本大震災ボランティア活動」へ参加しています。地域の方々とともに、仮設住宅内の花壇の設置や農地のがれき撤去、海岸林植樹などを行いました。

株主・投資家とのコミュニケーション、IR活動

株主総会

当社は、招集通知の早期発送、インターネットによる議決権の行使、英文招集通知(要約版)の作成など株主総会の活性化および議決権行使の円滑化に積極的に取り組んでいます。

2013年6月26日に開催した第3回定時株主総会には、株主約300名の出席があり、議案および当社グループの経営について丁寧に説明を行うとともに、株主総会終了後には株主の皆様との懇親の場を設け広く意見交換を行いました。

IR活動

当社は、ディスクロージャーポリシーを作成し、当社グループに対する理解促進と適正な評価に資する重要な情報の適時・適切な開示に積極的に取り組んでいます(ディスクロージャーポリシーの詳細については、当社ホームページをご参照ください)。

海外の機関投資家に対しても、決算説明会模様や重要情報の英語版でのタイムリーな情報提供に努めるとともに、欧州・米国において年数回海外IRを実施しています。

■ 主な活動事例

地域清掃

ミライト東海支店、ミライト西日本支店、ミライト神奈川支店(支店周辺、綾瀬技術センタ周辺、平塚センタ周辺、藤沢センタ周辺)、ミライト四国支店、ミライト千葉支店(支店周辺、長沼技術センタ周辺、千葉市稲毛浜)、ミライトNTT事業部(アクセス部東京ASC周辺)、ミライト・テクノロジーズ京都支店、ミライト・テクノロジーズ本社、ミライト・テクノロジーズNTT事業部東日本事業部(大宮技術センタ)、ミライト・テクノロジーズKAIZEN推進本部、ミライト・ホールディングスエムズブレイン・センタ(大阪サテライト)

地域イベント

- 地域で開催される「恋チュン踊り」「よさこいソーラン」への参加、ボランティア(ミライト北陸支店)
- 町田市内で開催される「どんと焼き」「夏祭り」へのボランティア(ミライト藤沢センタ)
- 銚子みなとまつり「やっべ踊り大会」への参加(ミライト銚子センタ)
- 成田市「公津みらいまつり」への参加、ボランティア(ミライト成田技術センタ)
- 豊洲フェスタへの出店(ミライトグループ)
- 高崎祭り、前橋祭りへの参加(ミライト・テクノロジーズNTT事業部東日本事業部)
- 松原市民まつりへの参加(ミライト・テクノロジーズNTT事業部西日本事業部)
- 地域住民を招いてのお花見会の開催(ミライト・テクノロジーズNTT事業部東日本事業部)

その他

- AEDの設置
- ペットボトルキャップでワクチンを寄付
- 大雪時に公道を除雪
- 子どもワクチン募金

高い技術力に基づく確かな品質のサービスを提供する

お客さまに満足していただき信頼を得るため、安全と品質を大切に「総合エンジニアリング & サービス会社」として最高のサービスを提供します。

品質マネジメントシステム

品質方針

標準化された生産・サービス活動を効率的に展開し、お客さまの期待・信頼に応える高品質な製品・サービスを提供しています。

- 適用される法規制及び顧客要求事項に迅速に対応する。
- 「お客さま第一」の理念のもと、製品・サービスの質的向上並びに施工品質の向上を図ることにより顧客満足度を向上させるとともに、効率的な生産・サービス活動を実現する。
- 品質リスクを低減し、QCDの維持・向上を実現する (QCDとは、Quality:品質、Cost:コスト、Delivery:納期)。

ミライトグループ各社は、統合マネジメントシステムのひとつとして品質マネジメントシステム (ISO9001) を認証取得しており、「安全・安心・信頼の確保」は経営基盤と考え「品質方針」を定めて、高品質の工事やサービスの提供に努めています。

品質を支える技術力の向上

IT 技術者数推移



つくばフォーラム

高度 IP 資格者の育成

高度化する情報通信関連技術に対応するとともに、ICT ソリューション関連の新規分野への事業拡大を図るため、高度な IP-NW 技術者およびサーバ技術者を積極的に育成しています。

社員の技術スキルと安全・品質レベルの向上施策

ミライトグループ各社の安全・品質レベルを統一し、相互に稼働応援ができる体制を整えるため、全作業員を対象にスキル確認統一試験を実施しています。また、各事業分野で求められる資格者、有スキル人材を効果的に育成する拠点として、千葉県市川市と兵庫県神戸市に研修センタを設けており、お客さまへ「安全・安心・信頼」を提供できる現場力を高めています。

業界全体の技術力向上への取り組み

業界全体の技術力向上に貢献するため、各種展示会に参加しています。「西日本 ICT フォーラム」(9月18日・19日)では落雷抑制システムなどを展示し、「つくばフォーラム」(10月17日・18日)ではアクセスネットワーク建設工事に関する技術開発成果を展示しました。

お客さま満足の向上を目指す取り組み

お客さま満足度調査

ミライトグループ各社では、お客さまの声を積極的に業務の改善につなげるため、お客さまに提供した製品やサービスに関するアンケートを行うなどお客さま満足度調査を実施しています。

KAIZEN 大会

ミライトグループ各社では、業務の改革や改善に関して現場から積極的に情報発信できるよう改善提案活動や TQM (Total Quality Management) 活動を推進しています。10月25日に開催したミライトグループ「KAIZEN 大会」では、安全・品質向上、生産性向上、営業力強化などをテーマに東京会場と大阪会場をテレビ会議システムで結び、15組が事例の発表を行いました。



KAIZEN 大会

技術力に関する評価

通信建設業界で初めて CMMI レベル 3 を達成

(株)ミライト情報システムは、通信建設業界向け業務システムの開発を行う部門において、ソフトウェア開発プロセスの能力成熟度を評価する国際標準的な指標「CMMI Version 1.3」の、成熟度レベル 3 を通信建設業界で初めて達成しました。今後も継続的なプロセス改善に取り組むことで、さらなる品質や安全性の向上に努めます。

「優秀施工者」国土交通大臣顕彰を受賞

2013 年度「優秀施工者」国土交通大臣顕彰を、東邦建(株)の澤田政二が受賞しました。この顕彰は、現場の第一線で「ものづくり」に直接従事し、特に優秀な技能・技術を持ち、後進の指導・育成などに多大な貢献をしている建設技術者に与えられるものです。ミライトグループとしては 2012 年度に引き続き 8 人目の受賞となりました。

「光通信工事技能競技会」で金・銅メダル

(社)情報通信エンジニアリング協会が主催する「光通信工事技能競技会」は、日本の ICT を支える情報通信の基盤を構築することを目的に、毎年開催されています。2013 年 7 月 31 日に名古屋市で行われた「第 8 回光通信工事技能競技会」において、ミライトグループは「複合設備施工競技」で金と銅の 2 つのメダルを獲得しました。

アクセスデザインコンテストで優勝

(社)情報通信エンジニアリング協会が主催する「第 4 回アクセスデザインコンテスト」が 11 月 8 日に開催され、(株)ミライト・テクノロジーズから参加した 2 名が優勝しました。この競技は、電話設備工事に関する「設計図面作成」および「行程算出」を競うもので、全国の通信建設会社から 22 チームが参加しました。

いきいきと働ける安全な職場をつくる

安全で働きやすい職場環境の整備を行うとともに、従業員一人ひとりの個性を尊重し、持てる能力を最大限に発揮できる組織風土づくりを推進しています。

労働安全衛生マネジメントシステム

労働安全衛生方針

- 業務の遂行にあたっては「安全」を最優先とし、ミライトグループで働く人々の安全と健康を確保し、快適な職場環境の形成を促進します。
- 適用される法規制及びその他の労働安全衛生要求事項を順守する。
 - 適切なリスクアセスメント及び危険予知活動を通して、事業活動で発生する労働安全に関するリスクを迅速に低減・排除する。
 - ミライトグループで働く全ての人々は労働安全衛生の相互啓発を図り、安全・安心の定着活動を促進する。

ミライトグループ各社は、労働安全衛生マネジメントシステム (OHSAS18001) を認証取得しています。「安全、安心、信頼の確保」を経営基盤と位置付け、それぞれ「労働安全衛生方針」を定めて安全で快適な職場環境の確保を図っています。

安全に関する取り組み



ミライトグループ安全大会

ミライトグループ安全大会

「全国安全衛生週間」にあわせて、ミライトグループ安全大会を7月4日に東京で、7月25日に大阪で開催しました。社長によるトップ方針や安全施策の発表等を行い、情報共有による安全意識の醸成を図りました。

ポケット冊子「事故防止ケーススタディ」を制作

(株)ミライトのドコモ事業本部では、独自の安全施策として「事故防止ケーススタディ」を制作しました。「基礎建築部門編」「コアネットワーク編」「無線IMCS部門編」の3分冊から構成されており、従業員が携帯しやすいサイズとしました。全国支店に水平展開し、事故防止の強化に努めています。



ポケット冊子「事故防止ケーススタディ」

「安全優良職長」厚生労働大臣顕彰を受賞

(株)沖創工の玉城努が、2013年度「安全優良職長」厚生労働大臣顕彰を受賞しました。この賞は、優れた技能と経験を持ち作業安全について優れた成績をあげた職長に授与されるものです。

人材育成と雇用

多様な人材の採用

海外事業を展開するため、外国籍の方を対象としたグローバル採用や留学生採用などを行っています。また、障がいを持つ従業員にとっても安全で働きやすい環境整備を行うとともに、就業職場・職域の拡大に努めています。

人事制度と研修制度

ミライトグループでは、新しい企業文化をつくる原動力となる新たな人事制度を2013年度に導入し、活力ある職場づくりを目指しています。

2014年度からは、「新しい退職金制度の導入」と「定年退職者を対象とした希望者による再雇用制度の導入(65歳を限度)」を決定しました。これにより、さらに従業員が安心して働き続けることができる環境の実現を目指します。

研修制度は、大きく分けて階層別研修と技術系専門研修の2つで構成しています。階層別研修では、新入社員研修から役員研修までそれぞれの職位やポジションに必要なスキルを受講し、幅広い知識を習得しています。



通信インフラ業界は男性が多い職場ですが、当社では現場やSEなどの第一線で活躍する女性が増えています。私は現在、設計や工事監理等を担当していますが、これからもさまざまなプロジェクトに挑戦していきたいです。

(株)ミライト
ソリューション事業本部
松土 倫子

働きやすい職場づくり

ワークライフバランスと人権啓発の推進

多様な働き方を選択できる制度を整えるなど、従業員の仕事と生活の調和(ワークライフバランス)を推進しています。また、企業倫理に反することやセクハラなどについてミライトグループおよび協力会社の従業員などが相談できる「なんでも相談室」を設置しています。さらに、人権を尊重しあう企業風土を目指し、人権啓発のためセミナーなどを開催しています。

従業員の家族が参加する仕事体験

「親子をつなぐ子ども仕事体験」イベントを、9月28日に市川研修センターで開催し、多くの従業員家族が参加しました。当日は、子どもたちが光ケーブルの接続や高所作業車(バケット車)への搭乗を体験するなど、ミライトグループの事業内容を理解できるプログラムを実施しました。



従業員家族による「子ども仕事体験」

環境への負荷を減らし 地球をよりよくする事業に取り組む

自然環境の保全に努め健全な地球環境を次世代に引き継ぐため、新エネルギーや環境関連の事業に取り組むとともに、エネルギー使用量削減および再資源化の向上などさまざまな施策を推進しています。

環境マネジメントシステム

環境保全の主な取り組み

- 「緑の募金」、里山保全活動へのボランティア（ミライト・テクノロジーズ）
- エコカーの導入（ミライト千葉支店）
- 拠点事務所にグリーンカーテン（ミライト東海支店）
- 拠点事務所の窓に遮光フィルム（ミライト四国支店）
- LED照明への切り替え（ミライト四国支店）
- 東北地方における海底のがれき撤去（ミライト神奈川支店）
- イオングループ主催の中国（北京）の育樹活動への参加（ミライト千葉支店）

ミライトグループでは、グループ各社で環境マネジメントシステム (ISO14001) の認証を取得しています。

環境方針

- 日々の事業活動を通じて、地球環境の保全活動を推進し、社会の良き企業市民として豊かな社会の創造に貢献する。
- 省エネ法、廃棄物処理法等の環境保全に関する法規制及びその他の要求事項を順守し、地球環境負荷の低減と汚染の予防を図る。
 - 適切なリスクアセスメントの実施を通じて環境リスクを低減するとともに、効果的な環境活動を実現する。
 - ミライトグループで働く全ての人は、環境保全に対する認識を高め、健全な地球環境を次世代に引き継ぐために積極的に行動する。

省エネの推進、資源の有効活用



デマンド監視装置

地球温暖化の大きな要因となっている温室効果ガスの排出量を削減するため、エネルギー使用量の削減と再資源化の向上を推進しています。また、各部門でグリーン商品の購入を優先的に行っています。

オフィスにおける省エネ施策

オフィスにおけるエネルギー消費は、電気の使用によるものが多く占めていることから、ピーク電力への対応などグループ一体となって節電に取り組んでいます。

- プリンター、コピー機の台数削減
- 全社員のパソコンを省電力設定
- 室温設定の徹底
- 必要最低限の照明、不要な照明の消灯の励行
- エレベータの使用抑制の啓発・促進

廃棄物の削減と再資源化

土木工事から排出されたアスファルトやコンクリートの塊を100%リサイクルしており、プラスチックなどの廃棄物についても再資源化率の向上に努めています。さらに、ペーパーレス化や用紙の有効利用を進めています。



廃棄された携帯電話の電池のリサイクル

新エネルギーと環境関連事業

太陽光発電システム

太陽光発電事業に関して、導入の提案から構築・保守までをトータルでサポートするとともに、補助金申請や電力会社との調整などを行っています。2013年度の施工実績は、前年度比4倍近い27メガワット規模となりました。

また、エネルギー管理技術をより高めるため、ミライトグループでは初めての発電事業となる「ミライト栃木小野寺太陽光発電所」(年間発電量:1,270MWh)を竣工し、3月20日から売電事業を開始しました。今後はさらに事業を拡大していく予定です。



ミライト栃木小野寺太陽光発電所竣工式

EV急速充電システム

電気自動車 (EV 車) やプラグインハイブリッド自動車 (PHV 車) の本格的な普及に向けて、電気自動車充電インフラ整備への取り組みを積極的に展開しています。EV充電スタンドの構築に必要な土木・電気・通信といったエンジニアリング技術を提供しています。



EV充電スタンド

エネルギー管理システム

エネルギー管理システム (BEMS) は、エネルギーの使用量が見える化して制御するシステムです。ビルや各種施設の空調設備の運転管理を自動で行うことにより、最適な居住環境を維持しつつ、エネルギー消費量の削減を図ることができ、ミライトグループは設計・構築・保守までトータルに提供しています。

家庭用蓄電システム

夜間に貯めた電力を昼間活用することで電気料金を低減できる戸建て向けの蓄電システムを提供しています。既存の系統電力や屋根に設置した太陽光発電と連動させることも可能で、停電時には非常用のバックアップ電源として活用することもできます。さらに、ネットワークを介してエネルギークラウドと連携し、24時間365日遠隔でシステムの状態を監視するメンテナンスを提供しています。

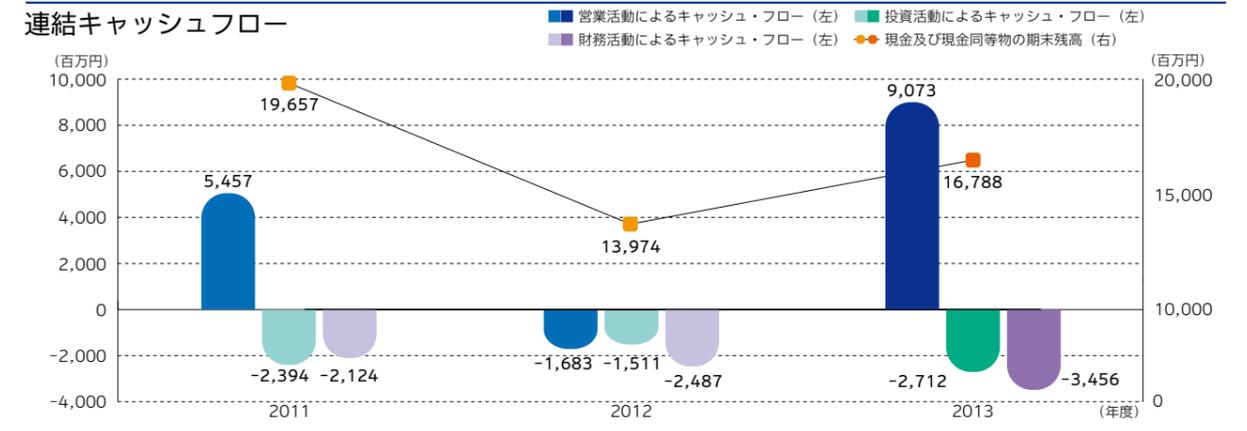
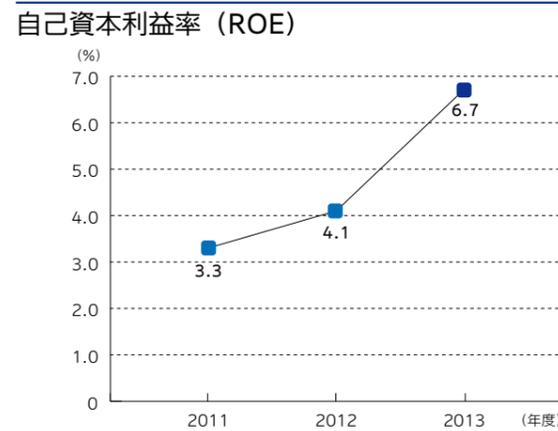
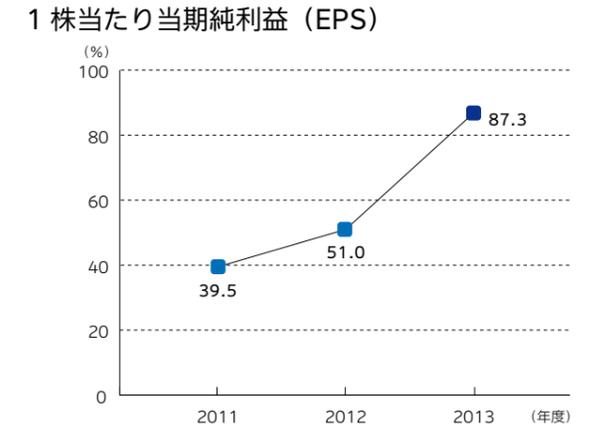
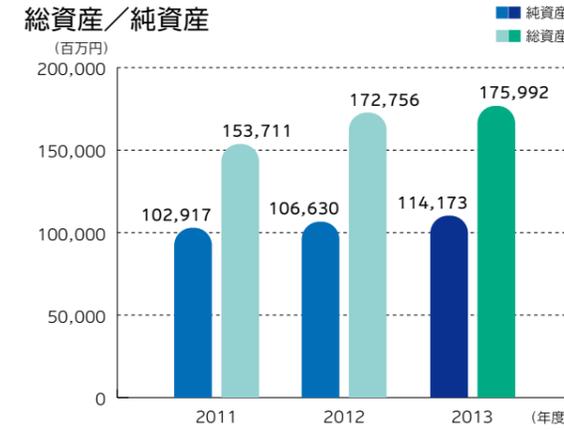
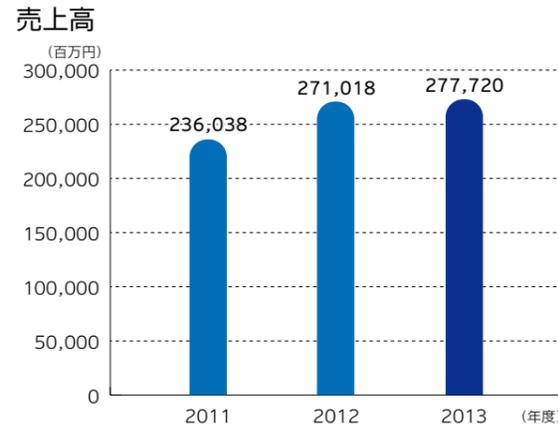
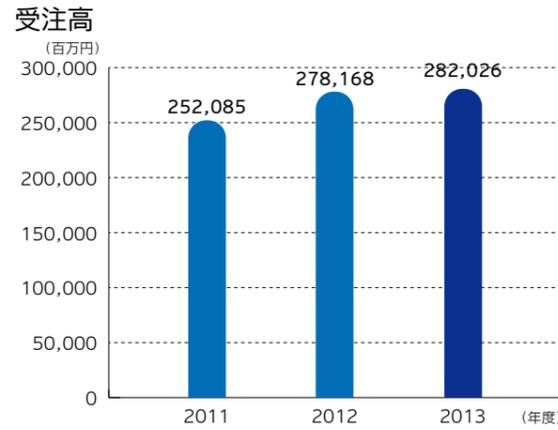


戸建て向け蓄電システム

健全な財務体質のもとで 堅実な経営を続ける

社会に認められ信頼される企業グループであり続けるために、健全な財務体質を堅持するとともに、Web サイトや冊子などを通して迅速かつ正確に財務情報を公開しています。

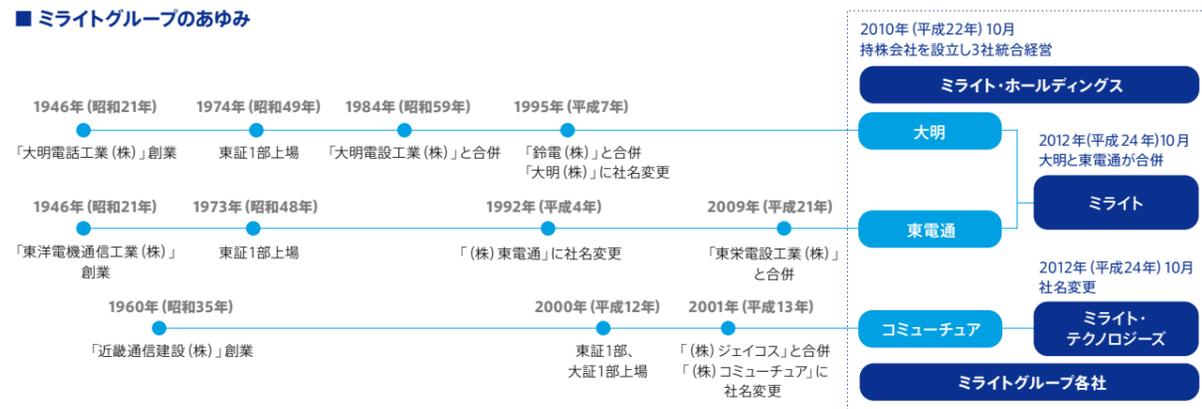
※最新の情報は Web サイト (<http://www.mirait.co.jp>) をご参照ください。



■ミライト・ホールディングスの概要

設立	2010年10月1日	事業拠点	【国内】26拠点 ※ミライト、ミライト・テクノロジーズの合計 【海外】5拠点 (フィリピン、オーストラリア、スリランカ、ミャンマー、タイ)
資本金	70億円	連結子会社数	34社 (2014年3月末現在)
社長(CEO)	鈴木正俊	従業員数	【連結】7,388名 (ミライト・ホールディングス 95名) (ミライト 連結 4,275名 単体 2,615名) (ミライト・テクノロジーズ 連結 3,018名 単体 887名)
株式	【発行済株式数】85,381,866株	決算期	3月31日
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部 (コード番号:1417)		
格付	日本格付投資情報センター (R&I) A- 日本格付研究所 (JCR) A-		
所在地	東京都江東区豊洲5丁目6番36号		

■ミライトグループのあゆみ



■大株主の状況(2014年3月末現在)

氏名又は名称	所有株式数(千株)	割合(%)
住友電気工業株式会社	16,236	19.0%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	4,140	4.8%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,625	3.1%
住友電設株式会社	2,488	2.9%
ビービーエイチフォーフィデリティロープライズストックファンド(プリンシパルオールセクターサブポートフォリオ)	1,950	2.3%
ミライト・ホールディングス従業員持株会	1,426	1.7%
ゴールドマンサックスインターナショナル	1,244	1.5%
株式会社みずほ銀行	1,229	1.4%
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	1,120	1.3%
ザチェースマンハッタンバンクエヌエイロンドンエスエルオムニバスアカウント	981	1.1%

※上記のほか当社所有の自己株式4,045千株(4.7%)があります。

社名の由来

私たちの希望をのせた未来に向けて、煌々と輝ける光の束を放ち、行く先を照らしながら、お客さまとともに成長し続ける総合エンジニアリング&サービス会社。それが私たちがMIRAIT(ミライト)です。「未来」、「IT」の2つの言葉を包含し、私たちのこの新しい決意を簡潔に表現しています。

MIRAIT > 未来
MIRAIT > Information Technology
> Integration Technology

コーポレートマーク

「3つの思い」を3本の太いラインで象徴化。それらをつなぎ、高品質な事業がグローバルに広がる様子をゴールドのアークラインで表現し、全体を「M」のイメージとしました。未来を切り拓いて行くとする私たちの針路の象徴でもあります。



3つの思い

- ① 事業ドメインの「幅」を拡げ
> 上流から下流工程の拡大(企画・設計、建設、保守・運用等)
- ② 事業ドメインの「高さ」を極める
> NI+上位レイヤ+下位レイヤまでのトータル提案
- ③ 新しい事業ドメインへの展開を図る
> 電気、環境、エネルギー分野等、将来の統合的な社会インフラの創造に寄与

■グループ会社一覧

株式会社ミライト・ホールディングス

株式会社ミライト	株式会社IPテクノサービス	株式会社ミライト・テクノロジーズ	片倉建設株式会社
株式会社エムズフロンティア	DAIMEI S L K (PRIVATE) LIMITED	株式会社アストエンジ	MIS九州株式会社
大明テクノ株式会社	東電通アクセス株式会社	株式会社コムリード	奈良建設株式会社
國興システムズ株式会社	東電通ネットワーク株式会社	株式会社フューコム	株式会社ブラクティカル・ソリューションズ
東邦建株式会社	株式会社日設	株式会社コトネットエンジニアリング	住電通信エンジニアリング株式会社
明成通信株式会社	株式会社沖創工	株式会社リガール	株式会社アクティス
株式会社日進通工	日本産業株式会社	株式会社グランドクリエイト	近畿電機株式会社
大明ネットワーク株式会社	株式会社ホープネット	株式会社エーライズ	MIRAIT PHILIPPINES INC. (フィリピン)
大明通産株式会社	日本トヨコム株式会社	株式会社ラビネット	MIRAIT Technologies Australia Pty.Limited (オーストラリア)
新光電機株式会社	株式会社リブネット	株式会社ミライト情報システム	
大明ビジネスメイト株式会社	タイムテック株式会社		

■主な営業拠点

